

平成29年度「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等
(全3ページ)

<p>教育方針 学校経営</p>	<p>本校の掲げる教育目標については、生徒、保護者とも昨年より3%ほど評価が低くなっている。保護者の+評価は78%(昨年度81%)とほぼ昨年度と変わらないのに対し、生徒の評価は63%とさほど高くない。今後さらに教育方針や目標の実現に向けた努力をしていく必要がある。通学の様子については、昨年度と同様、ほぼ80%の生徒が学校生活を前向きに過ごしている様子が分かる。</p> <p>一方、「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」の項目では、昨年と同様に肯定的な評価が59%と、6割に満たない結果であった。A評価も減少し、7%と低い。学習活動、部活動、生徒会活動等、学校生活のあらゆる場面で生徒一人一人が活躍し、自己肯定感を高めることができる教育活動を推進していく必要がある。</p>
<p>家庭との 連携</p>	<p>本年度も昨年度に引き続き「すぐメール」100%登録を目標に務めてきた。その効果もあってか一斉配信メールの配信については、保護者のAB評価が92%(A評価は70%)と高く、台風等の緊急時だけでなく、毎月の行事予定や配付物の確認等に効果的であったと思われる。「学校からの連絡文書等は保護者に確実に届けられている」の項目もAB評価が一昨年度の61%、昨年度の69%に比べ、本年度は73%と増加した。</p> <p>「ホームページによる速やかな情報伝達」についても保護者のAB評価が昨年度の67%から71%へ増加した。本年度はホームページに「多治見高生の活躍」だけでなく、「多治見高生の取組」の項目も作成した。学校の取組を広く知ってもらうためにも、保護者に一層の関心をもっていただくように働きかけていきたい。</p>
<p>教職員</p>	<p>「学校を訪問したり、電話したりした時の学校職員の対応」についてはAB評価が80%と昨年度に引き続き高い評価をいただいた。地域に開かれた学校創りを一層推進していきたい。</p> <p>「教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」については、AB評価が70%(昨年度69%)とさほど高くない。A評価も19%にとどまっている。来年度はアクティブ・ラーニングの研究指定も3年目(最終年)を迎える。その意味でも一層の授業改善を図りながら、魅力ある学校づくりを目指し、学校の取組について保護者に知ってもらうよう積極的に働きかけていきたい。</p> <p>「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」は、生徒のAB評価が51%と6割にも満たない。A評価も13%である。この現実をしっかり受け止め、生徒にとって身近な存在であるよう研鑽を積んでいきたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>学習指導のすべての項目について、生徒・保護者の評価は昨年と比較して減または微減である。特に生徒用NO13「本校では、教科により習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている」の項目では昨年比-8%で効果的な授業が展開されていないことについては、深刻に受け止めなくてはいけない。単純に少人数や習熟度にすれば、理解が高まるのではなく、大切なのは少人数であることを活かした練られた授業計画等の手立てであることを肝に銘ずるべきである。さらにNO14「総合学習・・・」については、昨年比-14%で生徒にその意義が理解されてない可能性も有り、さらにその方法についても適切かどうか、もう一度検証する必要もある。1年生についてはまとめ役をするコーディネーターが必要である。保護者についてはすべて昨年比-1%~-3%で微減であるが、一層の理解・協力が得られるよう努力していきたい。</p>

<p>生徒指導</p>	<p>昨年度は身だしなみ指導を除き数値が減少傾向であったが、全ての項目で昨年度と同等か上回る評価を得ることができた。モラル・マナー、身だしなみ、遅刻防止、情報モラル指導においても肯定的評価が70%前後で堅調に推移していることも評価できる。しかし、学校独自項目の大きなスローガンを抱えるが故の「あいさつ」は大きく評価を下げており、スローガン自体を一考する時期に来ていると思われる。</p> <p>いじめや体罰の問題・教育相談については相変わらず「わからない」の回答が多く、継続的に生徒・保護者への啓発が必要である。いじめ迷惑調査の実施から対応、心の問題を抱えている生徒について、スクールカウンセリングや外部機関との連携など、教育相談体制は組織的かつ機能的に対応できている。また、全職員がその情報を共有し組織で対応することの意識を高めることが肝要である。これからも未然防止、早期発見、早期対応を基本にして推進していく。</p>
<p>進路指導</p>	<p>「総合的な学習の時間」についての生徒評価ABが-12ポイントと著しく減少している。特に1年生において評価が低く、また1年生の25%が「わからない」と回答している。教科で分担している総合的な学習の内容が認知されていない可能性がある。学年の総合的な学習を統括するコーディネーターの存在が必要であると感じている。19,20の「進路情報の提供」や「適切な進路指導」の項目についても生徒評価が下がっている。学年別に見ると生徒保護者とも2年生に「C」評価が多い。現2年生は受験に対して前向きに動いているように見受けられるが、その裏返しとして不安を抱えている生徒への適切な情報提供やアドバイスがなされていないのではないかと。学年団と協力して生徒の不安解消に努めるとともにより適切な受験指導を施したい。そのベースとして「学校への信頼感」が必要不可欠である。33の「サタスタ」「夏期補習」についても、1,2年生徒・保護者で低評価(特に1,2年生保護者にCが多い)である。夏期補習はほとんど実施されていないため、夏期補習が必要なのか、またはサタスタの回数なのか内容なのか、どこに対しての評価なのかを確認する必要がある。</p>
<p>健康管理 安全指導</p>	<p>地震や台風などの対策マニュアルの周知についての肯定的回答は、生徒71%、保護者82%で比較的高い数値であった。しかし、昨年度との比較では、生徒-4%、保護者-3%と下がったので、さらに周知が図られるようHP、メール、配布物等を工夫していく必要がある。</p> <p>昨年度の反省で、校内美化・環境についての数値が保護者よりも生徒が低くなっていたので、昨年度末に生徒に詳細な校内美化のアンケートを再度実施した。その結果、「校内の清掃が行き届いている」と答えたのは、85%で12月の調査より30%上回った。入試に向け何度か大掃除が行われて向上したと考えられる。また、「掃除が行き届いていない箇所」の項目では「トイレ」という回答が32,9%で一番多く、その一方で、「掃除の行き届いている場所」は「トイレ」という解答も21,9%あった。各トイレの清掃状況を比較すると、床の汚れが目立ち清掃不十分な場所と床面の汚れのない場所の差が大きかった。大部分が乾式トイレに改良され、床面が明るくなったことで日常の清掃の善し悪しははっきりするようになったといえる。このことから、今年度はトイレの掃除マニュアルの見直し、清掃用品の拡充などを行ってきた。</p> <p>しかし、今年度の校内美化・設備についての肯定的回答は、生徒48%、保護者70%で、昨年度との比較では、生徒-8%、保護者-6%であった。トイレの現場比較でも昨年同様、場所により大きな差が確認できる。行き届いた清掃ができるよう用具やマニュアルを整えただけでは十分な効果が表れなかった。清掃に携わる人が、整った環境で学習したいと思える心を育てることが何より大切であると考えられるので、来年度は、防災美化委員会活動を通して学校への愛情を深め帰属意識を高められるよう取り組みたい。</p>

<p>学校行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習と部活動の両立に関する質問項目で、生徒-10%、保護者-2%の結果となり、文武両立の環境づくりへの配慮を感じていない割合が、生徒について高くなっている。文武両立をスローガンに掲げている以上、改善すべきと考えるが、学習と部活動のどちらに偏りすぎているのか、この質問ではわからない部分がある。 ● 部活動について、活発に行われていると回答した割合が、AB評価が昨年比べて、生徒-6%、保護者-4%となったが、数字としてAB評価が生徒77%、保護者83%であり、数字からは、活発に行われていると読み取れる。部活動間で差はあるが、働き方改革、学校の特性を考え、今後の部活動のあり方について検討していく必要がある。 ● ボランティアに関しては、生徒-10%、保護者±0%と生徒の評価が低い。1部活1ボランティアを実施し、各部活動単位でのボランティアに取り組んできたが、生徒にボランティアとして認識されていない面がある。今後も引き続き、活動への参加と、その大切さを教えていけると良い。 ● 学校行事について、生徒のAB評価は80%と高く、充実していると感じている。行事後のアンケートでも89~98%が充実していると回答している。また、保護者でもAB評価が73%あり、子どもの成長の糧となっていると感じてもらえている。今後もこのような学校行事を生徒主体で運営していきたい。 ● 講演会や体験など授業以外の学習機会の設定については、生徒-7%、保護者-3%となっている。必ずしもABが多いから良い、少ないからダメということではなく、取り組み自体も行っている。今後、内容を吟味し、生徒にとって有意義なものとなるようにしていく必要がある。 ● 情報発信がうまくできていないことで、取り組みが認知・理解されていない部分が往々にしてあると感じる。今後、情報発信を積極的に行い、多治見高校の取組を知ってもらえるようにしていきたい。そのためには、「見たい」「見てもらえる」ホームページにしていきたい必要がある。
<p>学校独自項目</p>	<p>「サスタスタや夏季補習を通して、きめ細かな学習指導がなされ、効果が上がっている」については、生徒のAB評価が51%と昨年度の50%とほぼ同じ結果となった。この結果を真摯に受け止め、改めて教員側は生徒にとって模試対策や平素の授業の補充等、真に実りのある時間となるよう、教える内容等を吟味する必要がある。朝の10分間の読書については生徒のAB評価が72%(昨年度は76%)となっており(A評価は34%)、一定の評価ができる。</p> <p>昨年度より指定を受けたアクティブ・ラーニングの取組については、生徒のAB評価が62%(昨年度は70%)と下げる結果となった。本来は90%を超える数字が出なくてはいけない。年度当初及び後期の始めに生徒にプリントを配布し、その意義や重要性について説いたつもりであったが、まだまだ生徒に実感として伝わらなかったことが原因と考えられる。学年別に見ても、確かに1年生は年度当初の取組の成果があつてか、AB評価が77%と高くなっているが、それでも目標には遠い。保護者の認識度もAB評価がわずか36%である(昨年度は40%)。また、「分からない」の回答も30%を超えている。この辺りも含めて来年度はあらゆる機会を利用して生徒と保護者に学校の取組を伝えていく必要がある。</p>